
所 属 : 情報科学研究科 システム工学専攻 システムインタフェース研究室
職・氏名 : 助 教 川本 佳代
U R L : <http://www.sys.info.hiroshima-cu.ac.jp/interface.html>
研究キーワード : 教育工学、科学教育、情報教育

■研究テーマ

① テーマ : e-ラーニング用サイトの構築方法に関する研究

概要 : 近年注目を集めているe-ラーニングの目的は、基礎知識や技術の習得から、高度な思考力(創造的思考力、論理的思考力等)や実践的な応用力の習得まで様々です。

それぞれの目的に応じた学習コミュニティの構築方法、Web サイトの作成方法、学習の活性化手法、コンテンツ開発について研究を行っています。

② テーマ : e-ラーニング教材の開発

概要 : e-ラーニング教材を開発しています。コンピュータ及びインターネットの特性を生かし、コミュニケーション能力、論理的思考力等の高度な能力の育成や、英語・数学・国語等教科学習を目的とする学習システムを、実験を通してその有効性を示しながら開発しています。具体的には、現在タブレットを使用した証明学習用システム、図形問題における補助線習得システム、失語症患者のためのリハビリシステム等を開発中です。

③ テーマ : e-ラーニングの評価方法に関する研究

概要 : e-ラーニングの評価方法について研究を行っています。基礎知識や技術の習得を目的とするe-ラーニングにおいては、獲得させたい知識を習得しているかどうか、技術を使用できるかどうかはペーパーテストや実技試験で時間的にも労力的にも比較的容易に客観的な評価を行うことができます。しかし、高度な思考力や実践的な応用力については、評価が主観的になりがちであり、時間かかることから、実現は難しい。投稿ログ解析、アンケート、インタビュー等を通して、客観的で適切な評価方法の研究を行っています。

■研究テーマの応用例

新たにe-ラーニングを始めようとする団体や既に行っている団体に対して、以下のような講義や実践に即した助言を行うことができます。

- ・ e-ラーニング用サイトや学習コミュニティの構築方法、維持方法
- ・ さまざまな教育目的に応じた学習システムの開発
- ・ 学習効果を客観的に測るための評価方法や分析方法(統計的手法、データマイニング、質的分析手法等)
- ・ e-ラーニングの現状と未来

■想定される連携先

- ・ 小・中・高等学校
- ・ 公民館等の生涯学習を目的とする機関